

# ぶらりらいぶらりい

～図書室にはこんな本があります～

No. 33

★ 4月27日～5月27日の特別企画展「昭和の食の移り変わり」にあわせて、今回は「食」についての図書CD資料をご紹介します。

## ◆ 『日本の食生活全集 CD-ROM版』

“大正末期から昭和初期”の伝統的な食文化を記したCD-ROMです。地域の風土に根ざした食生活から土地の人びとの暮らしぶりをうかがったり、季節の食材を使った日常の献立、晴れ食、行事食、救荒食、薬用食などを知ることができます。

※“戦中・戦後”の食を調べるCD-ROMではありません。

## ◆ 調べたいことが決まらなければ…

調べるテーマが決まっていなければ、こんな方法はいかがでしょうか？興味のある記事を簡単に探しだすことができます。

### 日本の食生活暦

- ・クリックする位置：表紙の画面、中央。
- ・「日本の食生活暦」と書かれた**文字**をクリックすると、日本地図がでてくるので、調べたい地域を見つけやすくなります。

### テーマガイド

- ・クリックする位置：表紙の画面、左上。
- ・「テーマガイド」と書かれた**ボタン**をクリックすると、各テーマごとに表示されていて、読みたい記事が選びやすくなります。

## ◆ ご利用の手順はこのようになります。

1. カウンターに請求票を出して下さい。
2. 「検索コーナー4」で説明書を参考に検索をして下さい。
3. 画面をすべて閉じて終了して下さい。
4. CD-ROMと説明書を箱に入れ、カウンターに返却して下さい。

図書室には、書棚に並んでいる図書以外にもたくさんあります。

検索端末を使って、読みたい本を探してみてください。

操作方法等がわからない場合は、カウンター職員までお気軽に…。

図書館の仕事をしていると、雑用が多いのですが、なかでも本の修理は以外に重要な仕事です。「本は壊れかけているときに、一番壊れやすい」ので、危ないな！と感じたら、修理時なのです。と言うわけで、修理の話です。

修理には、色々やり方がありますが、大きく別けて「補強の修理」と「原型保存の修理」があります。補強は、もちろん図書館での修理のように利用上の破損を防ぐものですから、布テープや麻糸で「とにかく丈夫に」します。でも、まあ色気も何もありません。

本当の修理は、出版された状態を保存するもので、「修理したところが分からない」のが理想です。

特に貴重な本の場合には、適当な修理の目処がつかないときには、そっと箱に入れて保存しておく方が良いでしょう。でも、それじゃあ読めないじゃないか。と言う人も居るかもしれません。そんな時には、コピー本を作って閲覧してもらいます。本の利用と保存は、いつも難しい関係なのです。

ところで、古本屋さんは、仕入れた本が痛んでいると、手際良く“値段を付けやすいように”修理しています。強度には関係無いのですが、ホコリや汚れは、消しゴムで簡単に綺麗になります。古本屋さんが、帳場で本に消しゴムを掛けているところを見たこと有りませんか？。あれも立派な修理です。本がチョット綺麗になるだけで、値段が10%は上がるのです。

外国では、本の修理に関する本がかなり出ていて、一般的なものから、革装丁の本の修理などという特殊な本も出ています。どれも、出きるだけもともと使用されていた装丁材料を生かすように書かれています。和本でも、同じで、綴じ糸も簡単には捨てないで、再度使ったりします。

ただ、原型保存ばかりが良いわけではありません。いわゆる南京トジという針金綴じの本は、古くなると針金が錆びるので、いずれ針金を抜いて綴じなおさないと本が痛みます。

しかし、これはチョット技術が必要です。以前古本屋さんで買った本が、針金を抜いて、綺麗に糸カガリしてあったのには感心しました。「おお！、私以外にもこんなことをする人が居たんだ！」と、感心したものです。皆さんも、自分で修理して見ませんか？。(午睡)



—図書室から—

春の訪れが足早に過ぎ去り、今は新緑でいっぱいの景色になりました。暑かったり、寒かったりと服装にも気をつかう季節。体調の乱れに気をつけたいこの頃ですね。

\*「ぶらりらいぶらりい」のデザインがかわりました。

新年度になり、気分も新たに新しいデザインに変えてみました。より見やすく親しみやすい紙面にしようと思います。よろしくお願いします。

ぶらりらいぶらりい ～図書室にはこんな本があります～ No. 33

2002年4月23日 発行

編集・発行 昭和館 図書室

〒102-0074 東京都千代田区九段南1-6-1